

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所 新健康協会
発行人

〒813-0001
福岡市東区唐原6-7-1
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十五年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

健康の真理

そもそも、健康を説くに当って第一に心得るべき事は、健康の真諦は自然順応であり、自然尊重である事である。それについてまず考うべき事は、造物主即ち神が人間を造られた御目的は何であるかという事である。我等の解釈によれば、それは真善美の全き世界を造る事である。といっても、こんな途方もない説は容易に受入れ難いであろう。勿論、そのような理想世界は何百万何千万何百万年かかるかは分からない。としても、世界はそれに向かつて一步一步進歩向上しつつある。然る過去の事実を見れば、否定も出来得ないであろう、そうして神は霊で人間は体であり、両々相俟って無限の進歩を遂げつつあるのが真相で、その担当者として人間があるのはいうまでもない。以上の如くである以上、人間の責任たるや実は大なりというべきであると共に、この大事業を遂行する何よりの条件としては、人間の健康であ

る。この意味において、神は人間にはそれぞれの使命を与え、任務を遂行するに足るだけの健康を与えられているのは当然である。何となれば、もし健康をそこなうとしたら、神の御目的は達せられないからである。まずこの道理を基本として深く考えらば、健康こそ人間の本来であり、常態であらねばならない。然るに、不思議にも人間は病気に犯されやすい。即ち、異常体となるのである。とすれば、この事の根本が明らかに分かり、異常体を正常体に復活せしむる事こそ、神の御目的に添う事になるのである。

右の意味によつて、人体の異常化を検討する時、何を発見するか。それは何よりも自然に反する為という事である。故に、この反自然の実体を把握し訂正し、常態に還元する事こそ真の医学であつて、その復元の可能であるこそ、正しい医学のあり方である。従つて、反自然とは如何なるものであるかを、以下詳説してみよう。

人間がこの土に生まれるや、最初は人乳又は獣乳を飲む。これは歯がまだはえず、消化器能も出来たての脆弱性であるからで、漸次、歯もはえ揃い、体内機能も一人前になるに従つて、それに適応すべき食物をとる事になる。又食物もあらゆる種類があり、それぞれ特有の味わいを含んでおり、人体の方にも味覚を与えられ、楽しんで食すようになっていく。その他空気も火も水も、人

間の健康に必要な程度に存在しているというように、実に完全に出来ている。人体といえども頭脳から理性も記憶も感情も生まれ、手によつて物は造られ、足によつて人体を自由に移動せしめ、毛髪も皮膚も爪も目、鼻、口、耳等必要なものは、実によく備わっている。加うるに顔貌から全身まで皮膚によつて包まれ、それぞれの美を発揮している。ざっとみただけでも、以上の如くで、仔細に検討する時、言葉では言い表わせない造化の妙技である。一輪の花、一枚の葉、山水の美、鳥獣虫魚の末に至るまで、神技の素晴らしさに感嘆せざるを得ないのであるが、特に人間に至つては全く造物主の傑作である。特に種の保存としての生殖作用至妙に至つては、言語に絶するものがある。この様な神の大傑作である人体である以上、病という人間活動を阻止するような異変は、如何に反自然的過ちを犯しているかを考えるべきである。人間たるもの、この事に最も反省しなければならぬのである。

浄霊体験記

2ページ
3ページ

- 入会して五十年 安心と感謝の人生…
- 元気な体になって 人生への意欲湧く…
- 奇跡をいただいて 再び見えるように…
- 諦めていた子供 授かった奇跡…

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

手のかゆみ・頭重

入会して五十年
安心と感謝の人生…



大分支部
薫谷秀子 (83)

私は夫の両親が浄霊で元気になったことをきっかけに、新健康協会を知りました。そして、その様子を見ていた私も浄霊が出来るようになりたいと思い、昭和四十六年十一月、三十一歳で入会しました。以来約五十年の間に色々なことがありましたが、浄霊を受けておかげを頂いてきました。

これは平成二十一年、私が六十九歳の時の話です。三月頃より、右手人差し指にかゆみを感じ、六月頃には爪が浮くようになりまし。そのため爪が引っ掛からないようにテープを貼って家事をしていました。その後、両手全

体がかゆくなり指先は薄皮が何度もはげて、かゆいだけでなくて、痛いという状態になりました。家で毎日何度も浄霊を受けて過ごしましたが、痛みがあっても日々の生活に支障はありませんでした。

七月にはかゆみも少しづつ楽になり、八月には指の皮はカサカサではありましたが落ちてきてきました。ただ、爪の周りが黄色くなり、全部の爪が浮いていたので、今にも剥がれそうな状態でした。「以前何か手の治療をしたかな…」と考え、思い当たることといえば、若い頃IT部品組立工場の仕事をしていた時に、アセトンという薬品を使って部品を拭いていた…というものでした。インターネットで調べて分かったことですが、アセトンは消除法による危険物に指定され、麻薬向精神薬原料対象物質で「眼の刺激性、血液障害、中枢神経への影響、吸引すると頭痛、気管支炎を引き起こし大量だと意識を失うこともある…」と書かれています。私は三十七歳から五十五歳までの十八年間、少量ずつですがアセトンを使って部品を拭いていました。

思い返せば、四十三歳の時、髪から眉毛まで四カ月で全部抜けたことがありました。原因が分からずに髪が抜けていく時の不安と焦燥感、表現のしようもありませんでした。しかし支部と家庭で毎日浄霊を受けたおかげで家事は勿論、仕事も休むことなく続けられ、四カ月後には産毛が生え始め、一年余りで新しくきれいな黒髪が生え揃い、美容院でカット出来るまでになりました。この時の喜びは例えようもありませんでした。

その時には気づいていませんでしたが、頭髪が抜け始めたのも、手と同じく、最初はかゆみからでした。職場で

同じように頭髪が抜けた方や、ガンで亡くなった方もいましたが、私は「後頭部が重いなあ」と感じた時、浄霊を受けると何の苦痛もなく頭がスッキリして元気になりました。このように脳疾患や内臓疾患にもならず、頭皮と手指から毒素が排泄されたことが、何と有難いことか…感謝しかありませんでした。おかげ様で一年もしない内に指は完全に良くなりました。本当に感謝しています。

精神的ストレス

元気な体になって
人生への意欲湧く…

フランス・ブルターニュ出張所
グルリエ・イーヴ (78)



趣味を楽しみながら暮らしています。私はどちらかと言うと精神的ストレスが多く、不安になりやすいタイプです。体が丈夫でも、小さなことですぐ心配になったり、大したことでもないのに心配だけが大きくなったりしてしまいます。

二〇一三年の五月、急に腹部が激しく痛み、それから、下痢、心臓が圧迫される感じがしました。横になると、よりその症状が現れてきたので、普段より心配が一気に増してきました。また、このようなことは初めてだったので、不安ながらも冷静でいられるように明主様をお願いしました。妻から浄霊を受け、呼吸が苦しくて眠れない時は御守護のお願いをしました。すると不思議なことにスーッと眠りにつくことが出来たのです。

また浄霊を受けると、不思議と心配事も軽くなっていきました。この状態は日に日に良くなっていき、三週間後には元気になっていました。その間、気持ち暗くなったり、不安になったりもしましたが、明主様を思うことで、心に癒しと勇気を頂きました。

浄霊の素晴らしさを実感

昨年一月二十二日のことです。音楽祭に参加していた私は、トロンボーンの演奏のため舞台上に立っていました。さあこれから演奏を始めよう…とした瞬間、急に気分が悪くなり、筋肉が麻痺し始めました。演奏する楽譜を間違えてしまうほど精神的にも混乱し始めたので、それ以上演奏を続けることは出来ませんでした。会場の客席前列に座っていた妻がこの状況を察知して、すぐに客席からステージにいる私

に向かって浄霊をしてくれました。すると気分も少しずつ良くなりました。その日はそのまま家に帰ることが出来たのですが、それから二週間、ずっとベッドの上で過ごすことになりました。

その日から思うように食事が入らず、体力が落ちていき、ほんのわずかの動作でもかなりの努力が必要な状態になりました。それでも妻が毎日浄霊をしてくれましたので、気分はとても良く、体も動かすことが出来、不安やネガティブな考えから解放されました。二週間程この状態が続きましたが、おかげ様で日に日に食欲も戻り、体力も快復していきました。今では日々元気に過ごしています。

私はこのことを期に、これからはもつと前へ進みたいという気持ちが生まれ、人生への意欲が戻ってきました。とても嬉しく、「明主様をお願いするとすごい!」「浄霊は素晴らしい」と改めて感じました。この大きな御守護を頂いたことに感謝申し上げます。(フランス・ブルターニュ)

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

白内障・心不全

奇跡をいただいて
再び見えるように…

福岡支部
斉藤民子 (84)



私が白内障を患ったのは十七年前六十七歳の時です。両眼を手術しましたが、二十日後に右眼の視界は霧がかかったように霞みはじめ、まったく見えなくなりました。もう一度手術をしました。一週間後には再び見えなくなりました。同じ手術は繰り返し出来ないことと術後より体調がすぐれなくなつたので、一カ月間入院しました。しかし、再び視力が回復することはなくいま退院の日を迎えました。

そんな時、私は過去に浄霊を受けていた時のことを思い出しました。このまま医学治療を受けたら大変なことになると思うと私が向かった場所は、以前浄霊を受けた支部でした。

何年かぶりに浄霊を受けて驚きました。今までだるかった身体がスツと楽になったのです！そして、続けて浄霊を受けると、右眼が真っ赤に充血し、

まぶたも腫れ上がり、頭がズキズキ痛むようになりまし。支部の先生より、「きつと眼が変わるための浄化作用です！」と教えて下さり、続けて浄霊を受けました。すると、一カ月後には、充血や腫れ、頭痛はすっかり良くなり、目ヤニがあふれるよう出てきました。そして、三カ月後には、霧がかかったような霞みはきれいに消えて、はつきり見えるようになりました。私にとつて「これは奇跡としか考えられない体験」であり、明主様より新しい眼を頂いたと思えるほど嬉しく、心から感謝申し上げます。

おかげ様で現在でもはつきり見えております。



これは十年程前のことです。急に酷いめまいに襲われた私は自宅で倒れてしまいました。お医者さんから「心不全」と告げられ、早急に手術しないと危険な状態と言われ、ペースメーカーの手術を受けることに決めました。

術後は、傷口の痛みや胸の違和感、起立性低血圧によるめまいに苦しみました。いつも顔色は真っ青で、倦怠感にも襲われ、食欲不振になっていました。腕や脚には打ち身のような紫色の斑点が出てきて、お医者さんからは薬の副作用と言われました。「本当にこのまま生きていられるだろうか…」と心配で眠れない日々が続きました。

私は再びよく浄霊を受けました。その後、皮膚の斑点はなくなつていき、傷口の痛みや胸の違和感、酷いめまいも随分楽になりました。その後のペースメーカーの検査では、機械は二%未満での補助で済んでおり、ほとんど自分の心臓が正常に働いていることが分かりました。電池交換の手術も通常よりも少なく済むそうで、とても安心しま

した。

浄霊との出会いで、いつも神様から守られていることを知り、一日一日命の継ぎ足しを頂いていることに感謝申し上げます。 (福岡県福岡市)

肩の痛み・子宮の病

諦めていた子供
授かった奇跡…

ネパール・シャングジャ出張所
タラ・ラナ (42)



今から十九年前の二〇〇四年、当時私が二十三歳の頃、肩の強い痛みを治すため薬治療を行っていました。しかし、いくら薬を飲んで良くならず、痛みが続くばかりでした。そんな状態が二年続き、どうしたら良いだろうかと悩んでいた時、浄霊という方法がある…ということを近所の方に聞き、浄霊を受けてみることにしました。

二〇〇六年九月三日より、シャングジャ出張所で浄霊を受けるようになり、最初は楽になったり、つらくなったりを繰り返していました。しかし、薬で楽になったことがなかった私は、浄霊で楽になるのが嬉しく、こ

のまま浄霊を続けていれば、必ず楽になると信じるようになりました。そして約三カ月後の二〇〇六年十二月一日に入会しました。おかげ様で、その後、数カ月で痛みがなくなり、肩がとても楽になりました。

とても嬉しく、浄霊の素晴らしさに感謝しました。

妊娠の兆し…

私は以前から子供が欲しかったのですが、生理が来ないため、子供が出来ませんでした。

浄霊を知る前、時々下腹部が耐えられないほどの痛みで苦しんでいましたので、ある占い師に見てもらおうと、「あなたには子供が出来ない…」と言われてショックでなりません。私はすぐ病院へ行き、レントゲン検査を受けました。すると、お医者さんからも「子宮が悪い」と言われました。この時から、子供は出来ない…と諦めていました。

ところが、浄霊を始めて暫くした時、なんと生理が始まったのです。とても驚きました。あれだけ子宮が悪いという診断を受けていたにもかかわらず、生理が来るなんて…本当に驚きました。そしてさらに驚きの出来事が起きました。

なんと、妊娠の兆しがあったのです。私は信じられませんでした。病院に行つて確かめてみました。すると「妊娠している」と言われ、私は諦めていた子供を授かり、とても喜びました。これは、明主様の素晴らしい御力によるおかげだと思えました。その後、二〇一〇年に無事に女兒を出産しました。

浄化作用

人間には体内の毒素 (= 汚物) を排除して健康を促進しようとする働きがあります。これを称して自然良能力と言います。

例えばカゼの場合、体内にあつてはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素がハナやタンとなって排せつされるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

私は、明主様から頂いたおかげを、たくさんの人にお話しし、現在も忘れることなく続けています。

ある日、父が体調を崩したと連絡がありました。翌日、父に会いに行き、浄霊について話しをしました。父はベッドから立ち上がることも出来ず、食欲もないという状態でしたが、それから一週間、私は父に浄霊をしました。父は浄霊を受けて、食事も出来るようになり、歩くことも出来るようになりました。

どんなことに対してもおかげを頂き、明主様に心より感謝申し上げます。

(ネパール・シャングジャ)

自然農法

自然農法体験談



札幌支部
よこやまひろあき
横山泰明 (69)

私は新健康協会を知り、浄霊でたくさんのおおかげをいただきました。そして、「こんなに幸せな環境にさせていただいて有難うございます…」と感じた時、恩返しをせずにこのまま人生が終わってしまつてはいけなないと思ひました。その時出会つたのが「自然農法」です。美味しく、安全で、心が平和になる作物を作ることが出来たなら、きつと皆様に喜んでいただけたと思ひました。

豊滝で営農を始めて14年

農業者でない自分が畑として使える土地を探して二十数年、札幌市南区豊滝に半分が農地、半分が非農地の耕作放棄地が見つかりました。覚悟を決めなくてはいけない時が来た…と思ひました。また、不思議なことに農業に全力投球が出来る環境も整つて来ていました。

豊滝で営農を始めて14年が経ちます。

自然農法は改めて素晴らしい農法だと実感致しました。「作物は耕作者の愛情と無肥料で育ちます…」と教えていただいています。つまり、出来た作物は安全で美味しく食べられますが、作る耕作者の心も同時に育てて下さいます。畑も種も耕作者の心もドンドン進化していく、そのように感じます。畑を訪れる方は、きれいな景色で気持ちが良い、なぜか落ち着く…と仰います。

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てること、自然力を生かす農法です。

食べ物は沢山あるのに、安心して食べられる物がない。そんな時代です。自然の作物が皆様の健康のお役に立つ可能性は高いと思ひます。是非、皆様もご自分で安心安全な作物を作られて、自然農法を活用されてみては如何ですか。ここで採れる作物には限りがありますが、自然農法は皆様の家庭菜園でも出来ます。

作物は喜んで愛情を返してくれる

自然農法は無肥料なので、畑の栄養分が無くなると虫が来なくなり、病気も少なくなり、だから農薬を使う必要がなくなります。作物を愛してあげると、作物は喜んで愛情を返してくれます。作物からのお返しに気づいた時、その嬉しさで心が穏やかに、優しくなりました。

私もじゃが芋の種芋の植え付けの時に、じゃが芋一個ずつに「ありがとう」と言葉をかけ、美味しく元気に育つて下さい…との思いを込めて植えていきます。おかげで、じゃが芋もその気持ちに応えてくれるかのように元気に育つてくれます。

みんなで一緒に気づいて、安心安全な世の中になれば嬉しいです。どうもありがとうございました。



じゃがいも (さやあかね) の花

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

金島桂華 《翡翠》

「溪流の宝石」とも呼ばれる、目の覚めるような羽色の翡翠。小さな体に大きめの嘴をそなた姿がとても愛らしい鳥です。その鮮やかな青は、構造色という発色の仕組みで見える色だといひます。青い色素があるのではなく、羽の微細な構造が特定の光の波長を反射している訳です。自然界にはこうした独特の輝きをもつた生き物がたくさんいますが、その美しさを画材や印刷、モニターで伝えるのは至難の業。しかし、花鳥画に正面から向き合う画家はきつとその難しさ乗り越える努力を厭わなかつたことでしょう。本作を描いた金島桂華にとって、それは「写生」に打ち込むことでした。

日本画家である金島桂華は、一八九二(明治二十五)年広島県に生まれ、十四歳で大阪に出て絵を学びます。十九歳になると京都で竹内栖鳳の画塾「竹杖会」に入門。一九一八(大正七)年の第十二回文展で「叢」が初入選した後は官展を中心に発表を行い、戦後は日展の審査員も務めたほか、一九五九(昭和三十四)年には日本芸術院会員となりました。京都市美術工芸学校で十年間教鞭をとり、画塾「衣笠会」を主宰するなど、後進の育成にも貢献した画家です。八十二歳で逝去するまで京都画壇を支える重鎮でした。

経歴のうえで桂華の画風に大きな影響を与えたと考えられるのは、円山四条派の伝統を汲む栖鳳に師事したこと、写生を重んじる制作態度とそれをもとにした写実的な表現が特徴とされる、京都画壇のこの大きな流れを、桂華は堅実に継承して次世代につないだのだといひます。「奇手におほれることも無く、又、秀囲気だけ

の幽玄の流れに流されることもなく、えてして日本人の好む安易な様式化をこころみることもなかった。それはひたすら天地自然の計り知れぬ神秘なる生命の実相に肉迫せんと正面からひた押しに押しと云う態度でもあきもせず写生に没入している日々の生活であつた。」

桂華の息子、靖の回想にこう偲ばれている通り、常に鉛筆を身辺から離さず、手当たり次第に素描していた生活だったそうです。花鳥風月を絵にするということは、「自然」を描くこと。写生が重要視されることは当然かもしれせん。ただ、自然に近づくことは並大抵では達成できないのです。息子をはじめとした人々の証言からは、桂華の写生に対する凄まじいまでの信念を感じることが出来ます。

解説 松田愛子



晴明会館

「暮らして花鳥風月」前期展
期間…6月1日(木)〜12月13日(水)

※晴明会館お問い合わせ ☎092(661)1555